

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

|           |   |
|-----------|---|
| 会議名       | 平成25年度第1回高松市男女共同参画推進懇談会   |
| 開催日時      | 平成25年7月10日(水)<br>13時30分～15時25分  |
| 開催場所      | 市役所11階 113会議室   |
| 議 題       | (1)平成24年度における第3次たかまつ男女共同参画プランに基づく事業の実施状況について<br>(2)高松市男女共同参画センターの整備について                           |
| 公開の区分     | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 上記理由      |   |
| 出席委員      | 時岡会長，蓮井副会長，綾田委員，伊藤委員，岩崎委員，中村委員，野田委員，本田委員，三木委員，湯浅委員  |
| 傍聴者       | 0人    (定員 10人)  |
| 担当課および連絡先 | 政策課男女共同参画推進室 (839-2275)   |

### 会議経過および会議結果

(1) 平成24年度における第3次たかまつ男女共同参画プランに基づく事業の実施状況について  
(事務局から内容説明)

(委員)

男女共同参画の推進については、これら指標の達成率をもってのみ判断できるものではない。なお、目標値の設定については、いかに市全体に関わるものにするのかという問題がある。

(事務局)

目標値を設定するときに、達成率というものは、検証方法の一つである。計画期間の中でいかに推移しているか、経年変化しているか見るのも検証の仕方である。目標値を数合わせの目安に用いることなく、達成できていない場合、その背景にあるものなどを含めて考えていくことが大切である。

(委員)

市男性職員の育児休業取得率の低いことについてはどうか。

(事務局)

現在の社会情勢を考えると、あまり好ましくない状況であると考えている。

(副会長)

市として、男性職員に対し、育児休業取得に関し、何らかの指導はしていないのか。

(事務局)

人事課では、これからお父さんになる人などの男性職員を対象に、子育てを積極的に分担する意識を高めるための研修を行っている。また、管理職を対象とした研修でも、これらの意識啓発の機会を設けているが、実際の取得率は、2パーセント程度にとどまっている。

会議経過および会議結果

(委員)

育児休業が取りにくい理由は何か。

(事務局)

固定的性別役割分担意識や、企業や団体などにおける男性の育児休業取得に対する理解など、いろいろな要素があると考ええる。

(会長)

研修だけでは難しいと思うので、前例が少ない「復帰してからの状況」などを紹介すれば、効果があるのではないか。

(副会長)

講習会を開くのは、大事なことであるが、そこで終わっていることが多い。実践することが必要で、行政が率先して行わないと、民間はついてこない。

(会長)

セミナーの男性参加者が非常に少ない。

セミナーのテーマ設定や開催の形を、もう少し工夫することにより、参加者が増えるのではないか。

(事務局)

25年度は男性をターゲットにして、男女共同参画やその大切さを学ぶ取組を行っている。

(会長)

今の社会の有様とか、自分たちの生き方を考えるという方向でやってもらいたい。

(委員)

シェルターの設置がゼロとなっている背景は何か。

(事務局)

シェルターの設置については、現在のマンパワーなどを考えると、公共での設置というのは困難な状況にある。今後、いかに民間でのシェルターの可能性を模索していくかが課題となってくる。事案によって民間とその都度連携しながら行っていることを聞いているが、庁内の関係課であるとか、県のこども女性相談センターなどと相談していきたい。

(委員)

市がやらなければ、なかなか難しいのではないか。

(副会長)

市民病院が仏生山に移転するが、その中に、シェルターという名称は別にして、機能を持つ部屋を用意してはどうか。病院がそういう機能を持つことも必要である。

(2) 高松市男女共同参画センターの整備について

ア 基本設計の概要について

(事務局から内容説明)

(委員)

駐車場は、どのように利用する計画か。

(事務局)

夜間急病診療所の附属駐車場という位置付けであるが、昼間はこども未来館や男女共同参画センターの方で利用できる。ただし、現在の夜間急病診療所が19時30分開館であることを考えれば、利用時間が重なる場合については、今後、調整する必要がある。

(会長)

新しいセンターの周りには、民間駐車場があまりない。駐車場の利用を

どうするのかということをしっかり検討してほしい。

(事務局)

本市では、公共交通の利用促進，過度に車に依存しないというまちづくりを進めており，この視点も念頭に検討していきたい。

(会長)

瓦町からは歩けない。高齢者の方とか，お子さん連れている方とかは無理だと思う。バスもそんなに便数が多くない。車を利用される方が多くなるというのを想定した方がよい。

(事務局)

今は車で移動するのに便利なまちになっている。急に，これらの傾向を変えるわけにはいかないで，できる限りお願いする方向で進めていきたい。

(副会長)

公共交通機関を利用するとなれば，バス停の設置依頼や道路に切込みを入れて車椅子の人が乗れるようにするなど細部にわたり，検討が必要である。

(会長)

反対側のバス停は，道路を横切らないといけない。交通弱者の方たちには，なかなか使いにくい状況にあるので，車の点は，考えてほしい。

(委員)

現在，8つ会議室があるが，男女共同参画センタースタッフとのすりあわせはできているのか。

(事務局)

学習研修室は，市主催の行事やセンター主催の事業を中心に使うことになるが，使っていないときの利用については，登録団体の利用を含めて，検討していきたい。ただし，受益者負担の観点から，一定の料金負担はやむを得ないと考えている。

(委員)

間仕切りしても，音はもれるので，同時に会議はできないと思うが，それも含めて大丈夫という意向は確認しているか。

(事務局)

会議が重なるときには，申し込みや申請の段階で調整する必要がある，どうしても音が聞こえて困るということになれば，日をずらすなどで対応せざるを得ない。

#### イ 建築設計における検討事項について (事務局から内容説明)

(会長)

図書数は，現状維持で，DVD等も含めてふれあい交流サロンに配置し，インターネットやパソコン等も一体的に配置して設置するという計画になっているが，このスペースで十分なのか。

(事務局)

図書など，すべてを表に出すのか，一部分を活用してストックしておくか，ある程度，図書を整理して，改めて増やしていくのか，今後，検討していかななくてはならない。

(会長)

整理して新しくすることもあるだろうが，図書や文献資料は，保存しておくのが大事という部分もある。保存スペースの問題で整理されたということがないよう，慎重に検討いただきたい。

(事務局)

今後、部屋の配置の検討段階に入っていくので、それに併せて、図書の配置等について、考えていきたい。

ウ 高松市男女共同参画センター、こども未来館（仮称）および平和記念館（仮称）の連携について  
（事務局から内容説明）

(副会長)

男女共同参画週間でのセンターの行事は、新しい館になると、どうなるのか。

(委員)

企画の段階で、3つの館が一緒に出来るようなソフト事業の計画も出てくるのではないかと。今までは、男女共同参画週間など、男女共同参画センターだけが行事を行ってきたが、今度は、いろいろな形で連携できるような企画をしていくべきではないかと考えている。

(会長)

例えば、男女共同参画フェスティバルの期間中に、全館を挙げてということになると、1階のフロアで、いろいろな行事があって、6階の会議室でもいろいろなことをやっている。また、それぞれの館が、そういう切り口で独自のイベントをやってくれたら一番いいと思う。小さいことでもいいから、全館を挙げて、同じテーマでやるというのを、毎月1個ずつやるというところから計画を始めていただきたい。

館の使い方については、キーワードの展示のように、みんなで何かまじりましょうでもいいし、ずっと何かがある、そういう二段構えで検討していただきたいと思っている。それが実現できたら、3館連携はおもしろい建物になると思うし、いろいろな人がきて、こんなことがあるのだと知ることができる。

(副会長)

イベントでは数百人集まると、車もそれなりに集まる。あの辺りは、周囲に置く所がないので、行くのをやめようとかか考えてしまう。だから、駐車場を立体にするのかとかも含め、もっと周囲で置けるところを確保するとか、いろいろ考える必要がある。

(委員)

ソフト面で、このようなことをやり出したら、各館の特色が見えにくくなるという話が出たのではないかと。

(事務局)

すべてが一緒にいうことではなくて、それをすることによって、どういう効果が生まれるのか。そこを考えながら、どういう事業を連携でやればいいのかということを考えていく必要がある。

(会長)

連携事業をやっているけど、それぞれの館の特色がなくなることは、有り得ない。

(副会長)

きちんとコーディネートする人がいないと、意見が決裂するのが一番怖い。そこをコーディネートする館長さんというのか、責任者というのか、それに誰がなるのかが、キーポイントになると思う。

(事務局)

いろいろな館が集まって複合施設にしたのは、お互いの強みをいかしながら連携をしていくため、それをやっていくべきだと思う。その際に、中心になるのは、ソフト事業で、それを考えていく人材が必要だと思って

いる。コーディネートする専門的な立場の方を確保し、うまくやっていきたい。経験がある方に、実際、館を見ていただき、コーディネートしていただいた上で、3館がうまく連携しながら、かつお互いの独立性を出しながらやっていけるように、準備を進めている。

それから、駐車場の問題が出ているが、公共交通の利用促進ということも考えている。ただ、すぐにはできない。高松市民の利用実態は、公共交通機関を利用者は、わずか5パーセント。6割が自分の車を使っている実態があるので、それを無視できない。120台で足りるのかどうかという問題はあるが、市内の駐車場が余っている状態で新しくビルを造るとき、駐車場の設置数について緩和している。そういう状況があるので、あまりたくさん作るということは、市としては難しい。ただ、大きなイベントを行う時など、状況を見ながら、対応していきたいとは思っている。

(会長)

「見ながら」ということだと、結局できないと思う。最初の段階で使い方が決まってしまう。公共交通機関を使うのであれば、使えるような形で工夫をしなければいけない。

(事務局)

公共交通機関を使ってほしいが、現実にはバスの本数も少ないし、電車でも距離の問題がある。時間はかかるが、地道にやっていく必要がある。大きなイベント時は、西側に国の合同庁舎があり、土日は借りられる状態にある。借りるかどうかは別にして、柔軟な対応をしていきたい。ただ、市としては、できるだけ自転車や公共交通機関を利用していただきたいということがある。電車やバスを利用していただくということも利用の一形態としてお願いしたい。自転車も使っていただきたい。

(委員)

全部一緒にしたような呼びやすい愛称、例えば、参画センターは、サンフリーというのがありますが、そういうことへの考えは。

(事務局)

建物全体を総称した愛称を、何か考えていきたいと思っている。

(委員)

トイレは、各階で男女の比率を変えるとかの調整はするのか。

(事務局)

3階と6階は、女性の比率を高くしている。

### 3 その他

男女共同参画センター指定管理者の募集について、事務局から説明した。

(閉会)